

## 第 3 回

太宰府市立学校給食改善研究委員会

## 議事録

太宰府市教育委員会

## 第3回太宰府市立学校給食改善研究委員会 議事録

- 1 日 時 平成28年3月23日（水） 午後7時～午後8時30分
- 2 場 所 太宰府市役所 4階 大会議室
- 3 出席者 【委員】  
百武委員、椎葉委員、石内委員  
古田委員、岡委員、大谷委員  
【事務局】  
学校教育課長森木、義務教育係長鳥飼、  
学校教育課主事朝川、学校教育課栄養士梅田
- 4 傍聴者 0名
- 5 議 事 1. 委員長あいさつ  
2. 審議  
（1）アンケート結果（一般市民を除く）速報について  
（2）給食実施方式による比較検討  
3. その他

### 6 審議内容

（事務局 鳥飼）皆様、お揃いになりましたので始めさせていただきますよろしいでしょうか。

（一同）はい。

（事務局 鳥飼）それでは、時間外の遅い時間帯にご参加いただきましてありがとうございます。第3回太宰府市立学校給食改善研究委員会を始めさせていただきたいと思っております。お手元のレジュメに沿いまして進めさせていただきたいと思っております。

はじめに、大石委員長が本日所用のためご欠席をされております。そして、中島委員につきましても所用によりご欠席のご連絡を頂いておりますので、報告させていただきます。

では、委員長あいさつということで代わりまして百武副委員長、一言だけお願いいたします。

(百武副委員長) はい。挨拶と申しますよりも、事前に資料を送っていただきまして本当にありがとうございました。見る余裕がありましたので、各委員さんも目を通していただけたものと思います。私も不慣れですので、できればスムーズな進行を行いたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

今日は、教育委員会からの報告書のダイジェスト版の説明ということで、この資料には(案)という文字が付いておりますので、各委員さんの活発な意見により、記載してある文言等の訂正や希望があれば積極的にお伺いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

設問項目がかなりございますので、勝手ですがいくつか割り振りして教育委員会の方からご説明をいただきたいのですが。割り振りについては何かありますか。

(事務局 鳥飼) かいつまんで概略をご説明させていただきますして、皆様にご意見頂こうと思っております。

(百武副委員長) 項目が多いのでまず目次に従って、調査概要と対象者、属性それから、調査結果のご報告、説明をいただきますが、調査結果の設問が多いので、できれば1～7番までの設問のご説明と、8～12番までの設問のご説明を分けていただき、あとは寄せられたご意見をお伺いするというところでよろしいでしょうか。

(一同) はい。

(事務局 鳥飼) ご説明に入らせていただく前に、事前にお配りさせていただきましたダイジェスト版の案、それからもう一つを参考資料として配布させていただきました。若干表紙が違いますけれども、今回は審議対象外とさせていただきますということですのでよろしくお願いいたします。

(岡委員) ちょっといいですか。これ、表紙が違うことは分かるのですが、

中身は同じなのですか。

(事務局 鳥飼) 中身は何も変えておりません。

(岡委員) 分かりました。

(事務局 鳥飼) それでは、調査結果に入ります前に調査概要ということでサンプル数についてでございますが、配布総数が 5,928 名に対して配布させていただいております。有効回収数は 4,740 名で、回収率が 89.5%となっております。対象者属性ですが、その項目として注目されるのは、中学校 1, 2 年生の保護者、小学校 5, 6 年生の保護者のどちらも女性の回答率が 97.1%となっております。男性の回答がほとんど無かったというところですよ。

調査結果に進ませていただきます。1 番「弁当持参状況」でございますが、平成 16 年の前回の調査では「ほぼ毎日持ってきている」と答えた方は、60.1%でしたが、今回の調査では 14.5 ポイント増加しまして、74.6%になった点が大きな点だと考えられます。それから、保護者の弁当作成状況も同様に「ほぼ毎日作っている」と答えた方は、前回調査の 63.9%から 11 ポイント増加しております。今回の調査では、74.9%に増加しております。

続きまして、3 番「弁当を持ってこない理由」として注目される点ですが、「弁当を作ってくれないから」と答えられた方が、前回調査では 41.4%でしたが、今回 32.1 ポイント減りまして、9.3%になった点が注目される点でございます。

それから、4 番「弁当希望状況」、5 番「弁当づくりの負担感」については、大きく注目される変化は特にありませんが、保護者については弁当作りに対して大変であるとか、大変そうだというような負担感を持っておられることが分かると思います。

続きまして、6 番「弁当作りに対する考え方」でございますが、a の中学生は、前回の調査とほとんど変化ありません。それから、中学生の保護者につきましては「弁当を毎日作るのは大変だから、給食やランチサービス等毎日作らなくて済む仕組みがあった方がよい」と答えられた方が、13.5 ポイント増えておりまして 83.4%に増加しております。

それから、c の中学校教師につきましては、「弁当を毎日作るのは大変だから、給食やランチサービス等毎日作らなくても済む仕組みがあった方がよい」と答えられた方が、40.9 ポイント増えまして、60.4%に増加しております。小学校の保護者につきましては、前回の調査と大きな変化は無いように見て

とれます。

それから、7番「弁当を持参していない日の昼食摂取状況」でございますが、(4)の利用額では、200円以上300円未満、それから300円以上400円未満の割合を合わせますと、だいたい8割に達するというので、前回の調査とあまり変わりはありません。

続きまして、8番「ランチサービスの評価」でございます。ご覧のとおり、おいしいという答えが唯一50%を超えているような状況でございます。

それから、9番「何も食べていない理由」について、でございますが、1番割合が高かったのが、お金を持ってきていないからという理由でしたけれども、それが「持って来られないのか」「たまたま持ってきていないのか」で意味が大きく異なってきますので、この辺りは注目される点ではないかと考えられます。それから、10番の給食に対する希望ですが・・・

(百武副委員長) すみません、ちょっと待ってください。7番までを一区切りということでしたよね。

(事務局 鳥飼) 申し訳ありません。

(百武副委員長) この中で、子どもも保護者もお弁当作りには、大変だから何か仕組みがあった方がいいというのがかなり多かった意見ということで捉えてよろしいですかね。

(事務局 鳥飼) 6番の弁当作りに対する負担感のところですかね。

(百武副委員長) そうですね。中学生の保護者も、小学生の保護者も中学生もということで、何か仕組みがあった方がいいというのが大多数を占めるということですね。

(事務局 鳥飼) そうですね。半分近くが、それぞれのご意見をお持ちだということですね。

(百武副委員長) そこまでについて、各委員さんから何かご意見等があればどうぞ。

やっぱり、お弁当作りは大変だという捉え方をしておられるということですね。今までのご説明の所で、ご理解いただけましたでしょうか。校長先生ご意見ありますか。

(岡委員) それでは、2点ですね。6ページの3番の(1)です。ランチサービスを利用しているからというのが、58.9%という数字で半数以上なのですが、これはただ、数字は正確に見ないといけませんよね。これは、全体を対象にして全体がこの数字で答えたのですかね。設問と合わせて考えないと、こういう条件のもとで考えて答えたパーセンテージなのか、全体の中の58.9なのか。今、副委員長さんからあったように選択肢があった方がいいという意見が大多数というのは間違いなく読み取れると思うのですが、これを半数というのか、それとも7割8割という数字で見るのか、というのは質問と合わせてもう少し具体的にしないとイケないのかなと思っています。設問と合わせて見ないと、その数字はミスリードする可能性があるということが1点です。

それから、お弁当作りが大変というのが、前回と同程度というところですよ。それはそれでいいと思いますが、質問で「夕飯を作るのは大変ですか」と尋ねれば、どの程度の回答があるのか、つまり、お弁当と比較した場合、この数字だけ走って見るのも危険なところがあると思います。以上です。

(百武副委員長) これは、回答者数に対しての割合でしたかね。全体に対しての割合でしたかね。

(事務局 鳥飼) そうですね、この設問は複数回答ができる設問になっておりますので、全体に対していくつか答えられている方がいらっしゃると思いますけれども、これを「ランチサービスを利用しているから」という回答をされた方が、107人のうちの58.9%の方がそう答えてあるということでございます。

(百武副委員長) では、回答者が107人なのですかね。

(椎葉委員) このNと書いてあるのが、人数ですよ。

(岡委員) 関連して言うと、これは弁当を持ってきているという子は答えていないわけですよ。

(事務局 鳥飼) そうです。

(岡委員) だから、もってきていない子どもの中のパーセンテージというこ

とですから、回答者の6割みたいな解釈をするとミスリードになるというわけですね。

(百武副委員長) だから、ここの回答者のうちというような理解が無いと、数字だけ見ると、捉え違いをする可能性があるのではないかなと私も感じております。

(岡委員) ただ、結論といたしましては副委員長さんがまとめられた通りで、過半数以上の方が、選択肢があることを望んでいると読み取れると思います。

(百武副委員長) では、他の委員さんからご意見はありませんか。

(椎葉委員) ここまでのアンケートを見るとやはり、親はお弁当を作ってあげたいけど、やっぱり大変だと思っている人が大体8割くらいということですよ。あとはやはり、給食かランチサービスを望んでいる人が8割ということ考えていいのですよね。

(事務局 鳥飼) そうですね。そのように読み取れると思います。

(百武副委員長) 古田校長先生は、何かありますか。

(古田委員) いえ、特にはないです。

(百武副委員長) 大谷委員さんは。

(大谷委員) 僕は、特にはないです。

(百武副委員長) はい、ありがとうございます。では、次のところに移ってもよろしいですか。

(一同) はい。

(百武副委員長) では次に、8と9の「ランチサービスの評価」と「何も食べていない理由」ということをお願いします。

(事務局 鳥飼) それでは、8番のランチサービスの評価ということで、こ

の質問は前回平成16年に行いましたアンケートには無かったものでございます。改めて今回の調査を行うにあたって入れさせていただいたものでございます。ランチサービスの評価につきましては、「おいしい」というのが50%を超えている、それからその次の肯定的な意見として「量がちょうどいい」というところで、ご意見をいただいております。この2つが特筆される点ではないかと思っております。以上でございます。

続きまして、「何も食べていない理由」でございますが、1番割合が高かったのが「お金を持ってきていないから」という理由ですけれども、持ってこられないのかそれとも、たまたま持ってきていないのかということになる点が注目される点になると思っております。以上でございます。

(百武副委員長) ランチサービスの評価の「おいしい」と評価した子は、過去に食べたことある子ですよ。

(事務局 鳥飼) そうですね。76名にご回答いただいているのは、普段食べておられる生徒さんだろうと思っております。

(百武副委員長) まったく食べたことのない生徒というのは、どのくらいいるのですか。この調査では出てきませんでしたかね。

(事務局 森木) この調査では出てこないですね。

(百武副委員長) この8と9の項目で、教育委員会の説明から何かご質問とかご意見とかがあれば、賜りたいと思っております。

何も食べていない子は、給食時間中、何をしていますのですかね。

(岡委員) いいですか。これは、生徒の回答ですから、ほぼ当てにならないところがあると思っておりますね。基本的に、他の3中でもそうだと思うのですが、給食時間では担任が必ず付きます。食べていない子がいれば必ず声をかけるし、どうしたのということになりますから、それでだいたい、子どもは「体調が悪いから食べない」とかになりますので、このパーセンテージはどこまで信憑性があるのかというのは、疑問ではありますね。

昼食時に何も食べていないという子は普通まずいないですね。

(百武副委員長) 早弁するのですかね。



(岡委員) 中学校では、まず早弁はありません。それは、高校生くらいからじゃないですかね。

(百武副委員長) どこかで何か食べているのかなと考えてしまいますよね。

(岡委員) だから、子どもで年間を通して教室に上がってご飯を食べていない子というのは、数件ないと思います。それぐらいの割合で必ず何か食べています。

(百武副委員長) これからすると、食べなかった子が 57.9%お金を持ってきていないというのはこのまま素直に書いていいのかどうかというところではありますね。

(椎葉委員) これは、19人中ですよ。そうすると、大体11人くらいですよ。

(岡委員) でも、一番気を付けておかないといけないのは経済的なところがあって、家からお弁当も食事代も持たせていないような子どもだと思います。だいたい事前に把握しておりますから、その子が持ってきていない時というのは必ず家庭に連絡を取るなり何らかの対応はしますので、例えば経済的に厳しい家庭が何も持ってないのに、それに何も対応しない状況はまず普通はありえない。

(百武副委員長) そうですよ。小学校でも、遠足の時でもお弁当持ってきてない子には、担任の先生が付いていく等の対応をしていますよね。

(岡委員) ですから、推測するとパン代で500円もらって、お小遣いを貯めるために「今日はお腹が痛いから僕はいません」とか言って貯金になったとか、それをアンケートに書くかと言ったら、まず書かないでしょうから、そういうパターンは推測されると思います。

(百武副委員長) それだけ見たら、ぎょっとしますよね。

(岡委員) 正直に、お小遣いを貯めるためと答える子もいますけどね。

(百武副委員長) 例えばランチサービスの評価の場合、申込期限は早いと思

う子が25人ということでしょうか。こういうのは、期限の対応はできるのですか。今後もしそういう状況になればの話です。どのくらい早いのか分かりませんが。

(事務局 鳥飼) いろんなご意見は頂くのですが、こちらのアンケート結果にもあります、当日や前日の購入ができるというご意見がありまして、出来るだけ短い期間でというご希望があるのは教育委員会でも把握しております。実際、今現在の状況では難しいのですが、業者さんとの協議によってそのあたりを変更するというのは検討課題だと認識しております。

(岡委員) 今の件でよろしいですか。私より事務局の方がお詳しいと思うのですが、例えば太宰府東中学校は生徒数が250くらいです。ランチサービスを注文しているのが、40人前後くらいです。それでも、市内4中の中では多い方ですよ。大体それくらいのパーセンテージだと思います。ただ同じ子が必ずということではありませんから、食べたことがあるかないかという話になった時に、その40はどのくらいの幅で推移していくというところになると思います。食べたことが無いという子が多いかもしれませんね。

(事務局 森木) 学校によって頼まれる学校もありますし、東中さんみたいに240、50のところではそれだけ頼まれる数の多いところもございます。頼まれる数というのは、学校によって全然違います。

(百武副委員長) それはどういう風に考えたらいいのですかね。

(事務局 森木) それは、ランチサービスを頼むという保護者それから、生徒さんが多いところ、例えば東中さんは最初から数が多くございまして、他の学校に関しましては、生徒数は多いのですが、どういうわけか頼まれる数が全体的に少ないという学校もございます。それは以前からでございます。

(百武副委員長) それに反比例して弁当持参の数が多いというデータは出てこないですよ。

(岡委員) それは、先ほどの設問にもあった「学中とかは弁当持参が多い」というのが逆になると思います。けど、お弁当持参についてはその極端なパーセンテージは変わらないですよ。

もう一つ関連して、いいですか。さっき、副委員長さんがおっしゃいまし

た「当日や前日に購入できるとよい」、これは意見として学校にも多く届いています。ですから例えば、親がお弁当を作る時に「あ、今日はおかずが無かった」とか、「ちょっと具合が悪い」とかそういう時には対応できないですよ。もちろん、パンとかおにぎりとかの方面では対応できると思いますけども。他の市町では当日券 OK なんていうところもありますよね。

（百武副委員長）石内先生とか他の委員さんとかご意見はありますか。特段無ければそれで結構ですけれども。

それでは、次の設問に移ってもよろしいですか。心残りはありませんか。ちょっとでも気になるとかあれば、解決しておきたいと思いますが。

では、次が肝心なところになると思いますが、「給食に対する希望」、希望する中学校での昼食方法というところをできれば詳しくお願いします。

（事務局 鳥飼）それでは、10番「給食に対する希望」というところでございます。まず、(1)の給食希望状況についてでございますが、中学生、小学生共に前回調査よりも「給食を実施した方がよい」「給食があった方がよい」という回答が減っております。しかし、中学校、小学校保護者につきましては、「給食を実施した方がよい」「給食があった方がよい」と答えられた方が前回調査同様、全体の約8割に上っています。

それから、(2)の給食に賛成する理由についてでございますが、全ての対象について大きな変化というのは無いように見て取れます。

(3)の給食に反対する理由でございますけれども、まず中学生につきましては「準備、後片付けが負担になるから」という理由が前回に比べまして、16ポイント下がりました。それから、bの中学生保護者につきましては、「弁当を作ることで、親子の交流ができるから」という理由が、前回に比べまして28ポイント下がりました。

続きまして、中学校教師の回答につきましては、「できるだけ家庭で作ったものを食べさせてほしいから」という理由が前回に比べまして、30ポイント下がっております。

それから d の小学生でございますが、「弁当の方が美味しいから」という理由が前回に比べまして28.1ポイント下がっております。

それから、eの小学生保護者ですけれども、「給食の衛生、安全性に不安があるから」という理由が前回に比べて、34.1ポイント下がっております。以上の点が、大きく変化した点でございます。

続きまして、「希望する中学校での昼食方法」というところですが、中学生につきましては47.2%の方が「選択方式」、中学生の保護者につきましては

「全員給食方式」で約 8 割の方が望んでおられます。それから、中学校の教師につきましては選択方式が 57.5% 希望されてあります。小学生につきましては、選択方式が 63.5% 希望されてあります。それから、小学生の保護者につきましては、83.8% の方が全員給食を望んであります。総じて保護者の方につきましては、約 8 割の方が全員給食を望まれてあって、小学生、中学生については、選べた方がいいという風に考えてあるということが見て取れると思います。

それから、12 番「学校給食やランチサービスで重要に思うこと」ということですが、それぞれ青が中学生保護者、白い部分が中学校教師、灰色の部分が小学生の保護者ということでそれぞれ明示させていただいております。大きくは変わらないことと思います。

(椎葉委員) ちょっと質問いいですか。ランチサービスの栄養価というのは、中学生の基準は満たしているのですかね。

(事務局 梅田) ランチサービスは、エネルギーは満たしていますが食品構成の部分に関して細かい栄養素は足りない部分がありますし、過剰な部分もあります。量の調整ができないというところで、基準量よりも多めに設定させていただいて提供している状況です。少ない量でも十分だと自分で判断して、その子は自分で量を調節してくださいというお願いをしている状況にあります。

(百武副委員長) 残食は、許すというような感じですかね。

(事務局 梅田) はい。量の調整ができないのでそのようになっております。

(百武副委員長) 校長先生は、ランチサービスの量は足りていますか。

(岡委員) 私は、三年間食べたのですが、丸々となりました。太宰府東中に来て二年目になりますが、前任校には検食がありまして、子どもが食べる前に必ず 1 回食べていました。システムは給食ではありませんでしたが、このランチサービスみたいなものでした。それを三年間食べましたが、大人にとっては少しエネルギーが高めかもしれません。

(大谷委員) ちょっとすみません。私は少し目が悪いので、思ったのですが、この表紙をもう少し大きくできないかなと。さっきの数の問題であるとか、

見えにくいので分かりにくいのではないかと思います。

（事務局 鳥飼）正式なものにする場合は、業者の方と話してグラフを下に持ってきてもらうなど調整をしようと思います。

（岡委員）ついでに、1点よろしいですか。今、副委員長さんがおっしゃったところだと思うのですが、14ページ「給食に賛成する理由」で例えば a の中学生は母体数が  $N=320$  になっていますよね。そして、17ページ「給食に反対する理由」で同じく A の中学生が  $N=270$  になっていて、反対する理由の人が少ないように見えるのですが、これも数字にごまかされてはいけないということですよ。というのは、13ページが総数を扱っている部分ですから、おそらくこれは回答数か何かの差を入れているということですかね。ですから、13ページにまとめてある通りが全体の統計値であるところは、見間違えてはいけないと思います。

（百武副委員長）一つ一つを見るとこういうことだけど、全体数は絶対違うというのが前提にくるだろうから、この統計においてはそういうのが必要になるのではないですかね。

（岡委員）そこは、純粹に結果として整理されたものですから、分析・考察する時点で見間違わないようにすることが必要です。数字はそのまま正直に出ますので、例えば15ページに「給食に賛成する理由」ということで、 $N=23$  ありますよね。ということは、2人違えば10%違ってくるというわけですよ。ですから、何%上がったもしくは、下がったという数字の見方にも気を付けないといけないと思います。

もう1点だけいいですか。13ページですが、これは誤脱です。「実践した方がよい」とありますが、「実施」ですよ。以下数か所ありますので、訂正をお願いします。

（百武副委員長）まとめられるときは、そこに留意なさって表現していただきたいと思います。

（大谷委員）すみません、いいですか。参考までに教えてほしいのですが。8ページに「弁当作りに対する考え方」の中で、中学校の先生方で「給食やランチサービス等毎日作らなくて済む仕組みがあった方がよい」と答えられている方が、60.4%いらっしゃって、先ほどの13ページに戻っていただい

て「給食に対する希望」になると、中学校の先生方は 21.7%の方が実施した方がよいということで、かなり下がっているような気がするのですが、これは何かしら理由があるのですかね。参考までに教えていただければと思います。

（岡委員） ちょっと私の方からいいですか。 8 ページで気を付けておかないといけないのは、平成 16 年の時にはランチサービスが無いですよ。そして、今年アンケートの中にはランチに関する内容が入っているので、この数字が極端に違っているというのは、ランチサービスの有無と関係があるということですよ。

（百武副委員長） ランチサービスができたのは、何年ですか。

（事務局 鳥飼） 平成 18 年です。

（百武副委員長） ということは、ランチサービスができる前の、例えば何かランチサービスではなくて給食のような仕組みがあった方がいいという答えと、ランチサービスができてからの答えとで違ってくるということですね。

（事務局 鳥飼） そうですね。極端に数値が変わった理由としては、平成 16 年の時点では、まだランチサービスが投入されていない時点で、何か弁当に代わるものがないですかというのがぼんやりあったと思います。今回は具体的にランチサービスというものが投入されましたので、その割合が増えたのではないかと考えております。

（大谷委員） 私がお尋ねしたのは、27 年度のパーセンテージだけのことで、中学校の先生方は、給食やランチサービスなど何かしら毎日作らなくて済む仕組みということに、27 年度において 60.4%の方があった方がよいという考えが 8 ページにあるにもかかわらず、13 ページでは、要は給食があれば毎日作らなくていいので、選ばれるのかなと思ったらその数字よりも極端に少ない 21.7%となっているので、ということであれば、先生方はランチサービスを希望されているのかなということもあるのですが、そこには何かしら理由があるのかなと参考までに聞きたかったです。

（古田委員） 僕もそこに関していいですか。資料を読ませていただいた中で一番興味深いことだったので、中学校の先生方は今の状態がいいと考え

られているのですよね。18ページの中学校教師の「給食に反対する理由」の中で、給食時間が短くなったり、ゆとりが無くなったりすると考えられている先生方が多く、給食に対して非常に否定的な考え方をお持ちであることが分かると思います。だから、選択方式は構いませんが給食となると大変だからしてほしくないという捉え方ではないかと思います。

(岡委員)いいですか。言葉の解釈をもう一回見直した方がいいと思います。8ページに戻りまして、40%の人が「弁当を毎日作るのは大変だから給食やランチサービス等毎日作らなくても済む仕組みがあった方がよい」ということで、だからそれ以外の60%の人が給食に賛成しているというわけではないですよね。その選択肢というのは、お弁当でもいいし、給食でもいいし、ランチサービスでもいいというものですから、100からこの60を引いて残りの40が給食賛成というような計算をするとおかしくなると思います。

ですから、13ページに戻ると、質問内容は違っていますが、給食を実施した方がよいと答えた方は、21%ということになりますよね。だから、単純に引き算はできないと思います。

(百武副委員長)全てが100%回答ではないというのが根底にあるので、数値も非常に捉えにくくなっていて、これは他の方が見ても全く分かりづらいだろうし、私共も分かりづらい点が多々あります。古田委員が言われたように、先生方は時間のゆとりが無いことが大きな問題としてあるのかなと伺えます。

(岡委員)一点いいですか。18ページで中学校教師というのが出てきたのですが、実は私がこの委員を務めさせていただくことになりましたので、職員と何人か話してみたいです。その中にはもちろん給食を経験している人もいますから、尋ねてみてまず一番は、アレルギー対応ですよね。小学校においても苦心されていると思いますけども、とにかくこれが怖いし大変だと話す職員が複数いました。ですから、質問項目としては、これだけは特に気を付けて十分に対応しなければいけない問題だと思います。数字は数字でいいとは思いますが、パーセンテージが少ないということについては、実際に経験していない職員にとってこれはなかなか分かりにくいことだと思います。

(百武副委員長)アレルギーに対して、ですか。

(岡委員)いえ、アレルギー対応を事前にどれだけのことをしないといけな

いのかということです。

（百武副委員長）小学校の方では、アレルギー対応に関して先生方はどのくらい大変だと思ってらっしゃると思いますか。

（石内委員）実際にアレルギーを持っている児童を持っていない先生というのは、そんなに思っていないと思うのですが、自分のクラスにアレルギー持ちの児童がいる先生は、本当に必死でいろんなアレルギーのことについて勉強されています。やり方もすごく工夫されていて、頑張っておられる先生もいらっしゃいます。

（百武副委員長）それは、給食に対してですか。

（石内委員）給食に対しても、アレルギーに対しても、対応した給食を出しているのですが、その子が間違っておかわり等をしないことや、他の子があげてしまったりしないようにというのも気を付けています。管理職も、違うクラスに誤配が無いかであったり、対応給食が間違っていないかであったり確認を最後にしてくださるし、学校をあげて対応しています。

（大谷委員）アレルギーの対応食というのは、おそらくクラスの中にいろんなアレルギーの子がいると思うのですが、その子に合わせてそれぞれ作るのですか。それとも、これに対しては何人とか、全部ある程度まとまりみたいなものを作っているようなイメージでいいのですか。

（石内委員）はい。いろんな種類があって、その子に完全に合わせたものを作ると間違ってしまうことがあるので、何種類かある場合は全部取り除いたものになることが多いです。

（百武副委員長）アレルギー対応としては、その子の命を守ることが大前提なので、例えば施設とか人員とかを考えたときにその対応が困難ならば、完全除去食もしくは、弁当対応とするような方針を取らないといけません。

学校において、アレルギーは人それぞれです。複数で複雑に、より困難になればなるほど、対応が非常にややこしくなって今の太宰府市の施設と人員では、無理なところがおそらく多いと思うのです。だから、除去食にするか、誤った調理を行わないように、例えば牛乳ならば加熱したものならばいいということであっても、いや、全て外そうよと完全除去食にするかということ



で、つまり、するかしないかであまり複雑怪奇な個に応じたアレルギー対応というのは、今の小学校では無理です。そういう現状がありますよね。

（古田委員） その通りです。

（百武副委員長） でも、その一つのものを作り上げても、それが如何に間違いなくその子の目の前に行くかというところまで、しっかり初期から対応者までエプロンを変えてというような厳しい制約があります。ですから、そのアレルギー対応というのは、例えばエピペンといってアレルギーが起こった時に自分で打つ注射があるのですが、それを持った子も何人かいます。だから今は、例えばキウイを食べた後、昼休み遊んで突然腫れてきたとかいう運動誘発性といって今まで無かったものが徐々に増えてきていますよね。校長先生がおっしゃるように、アレルギーの対応というのが一つの大きな課題ではあるのかと思います。社会問題になっているようですね。

ただ、他の子と同じものを食べさせたいと強く考えるアレルギーを持つ子の保護者の方もいるのも反面としてあります。どこまですり合わせていくか、どこまで学校で対応していくのか、教育委員会で一律で決めるとかではなくて、各学校においても施設によってできる、できないというのがあると思いますので、一つの学校の中の課題だと思います。

（古田委員） おっしゃる通りです。一番の課題です。

（百武副委員長） ただ全員が同じものを食べて、協力して給食の準備をするといったいろんな面での食育というものは、一味同心であったり、同じ釜の飯を食うとかであったりのいい点と、それが困難なものと一緒にあるということですね。

中学校においては、アレルギーはどれくらいの児童が持っているのかというのは分からないのですか。

（岡委員） いえ、年度初めにある程度の調査をかけたり、保護者案内を出したりします。あとは、修学旅行のような宿泊を伴う行事の前にはもう一回本格的な調査をする等、十分に備えています。ただ、修学旅行の2泊3日や自然教室の2泊3日だけでも事前に相当な調査をかけて、ホテルの方と連絡を取って献立を調整しないとイケません。実際にエピペンを持っていた子がいた時期もありましたので、気を付けないといけなところですね。

もう一つ補足していいですか。今のところの隣の隣の隣、休息時間が短くなり、

というところですが、これは中学校の場合はおそらく部活動の時間が短くなるという思いが多いと推測しております。誤解がないようにしていただきたいのは、給食をしている市や町もあるわけですから、イコールという話をしているのではなく、日没までに家にたどり着くようなところを完全下校の時間にしています。となると、夏場あたりはそんなに影響はないと思いますが、10～15分長くなるだけで部活動の時間が非常に短くなるというわけです。これは、単に学校に長くいるという問題ではなくて、部活の問題が背景にあるだろうと補足します。以上です。

（百武副委員長）今は、部活を減らそうということも聞きますが、そういう傾向はあるのですか。

（岡委員）それは別の問題になってくると思います。教師の数が少子化に伴って、教師の数が減るといっぱいの部活が持てなくなるという問題です。

（大谷委員）その分に関してですが、整形の先生とかが部活を毎日やられたり、その先生方が頑張っていて土日もボランティアのような形で出ていらっしゃったりしているのですが、整形の先生たちに言わせると、成長過程にある子供たちなので運動する時間を短くした方がいいという考え方もあるみたいで。要は、子どもが野球をやっているので、肩を酷使しすぎて小学校の時から肘とか肩とかを怪我してよく吊っている子がいるのですが、そういったことを無くすために地域の社会体育の子達は整形の先生たちと一緒に連携を取って、月に1回はそちらの方に通って休憩を取るとか、玉数の制限をするとか、そういった背景から少し時間を短くした方がいいのではという話は聞いたことはあります。

（百武副委員長）そういったのも背景としてくっついているのかもしれないね。

（岡委員）その場合は放課後の時間ですから、3、4時間というレベルではなく、例えば冬場だったら30分が15分になるとか、夏場でも2時間前後くらいですので、そのうちの10～15分ということになりますよね。

（百武副委員長）今の中学校の昼食時間というのは、何分ですか。

（岡委員）45分です。

(百武副委員長) 時間だけを比較したら、小学校も中学校も同じくらいなのに、小学校では効率よく給食を終わらせていますよね。

(大谷委員) 昼休みと給食の時間帯というのは、全く別ですか。

(古田委員) 全く別です。

(岡委員) 中学校は一緒です。

(百武副委員長) 昼休みを含めて45分なのですね。小学校は、給食指導の時間があって、それから45分の昼休みで、中学校は全部合わせて45分。そのところが、違うわけですね。

(大谷委員) それは、食が細くて食事をとる時間がけっこうかかるので、そうするとランチサービスで後片付けとか取りに行くとかで15分くらい、それに合わせて食事をとると小学校と比べて給食の時間が無いので、なおさら休息時間がやはり短くなってしまいますよね。そういったところで、ランチサービスをするよりはお弁当の方が出してすぐ食べられて、その間の休息時間で友達とお話ができるからということで、お弁当を選んでいるというのはいいと思います。

(百武副委員長) なるほど、そういったところもありますね。

(椎葉委員) 学校給食をしているところも45分なのですか。

(岡委員) それは、時制を確認してみないと分かりませんが、先ほどの10～15分くらいの時間が違ってくる可能性はあります。あとは、昼休みを短くすればするほど時間は取れますから、その代わり、準備していただきますをして、ごちそう様をした後に残り10～15分しかないという状況があるわけです。逆に言えば、お昼の時間を詰めれば詰めるほど後の時間に余裕が出るわけです。先ほどから言いますように、中学校の場合は6～8割の子どもが部活に入っていますから、冬場は完全下校が17時とかになってしまいますが、16時30分に終われば17時まで30分あるわけですね。では、それが後に15分押してしまえばと考えた時に答えられたものだと推測します。

(百武副委員長) アレルギーの問題もそうですが、もう一つは未納の問題もあるところには出ています。小学校給食をやってらっしゃる石内先生から、いや給食は大事だと強硬な意見はないですか。

(石内委員) 部活をする子供たちにとっては、パンだけとかを食べるよりも給食でバランスのいいものを食べてもらった方が、体にはいいと思います。

(大谷委員) 未納に関して言えば、食トレといって、体を大きくするのに食事がトレーニングの一環になっていて、社会体育の子だったり、ある一部の部活だったりするのですが、そこで、ある一定の量を決められます。ある中学校では、お昼ご飯にお米を1kg持ってきなさいとか、社会体育に行っても1年生は800g、2年生になると1.2kgお米を食べなさいというのがあって、子どもと保護者を合わせて、栄養士の先生を呼んで月に1回勉強会をしたりする子も中にはいますので、栄養価は高いというのは分かりますが、量は大丈夫なのかなという心配もあります。

(百武副委員長) 例えばランチサービスの場合ですか。

(大谷委員) ランチサービスにしても、給食にしてもですね。そういう側面を持った子たちもいるということです。

(百武副委員長) 食育も一つの大きな課題になっていますよね。様々な問題を含めた食事ですけども、今までのところで補足でご質問があれば、古田委員はどうですか。

(古田委員) さきほど石内先生が言われた、パン2.5個が平均ということなのですが、それで部活まで持つのだろうか、栄養価に関しては完璧にアウトですよ。一番成長期の子どもたちにとって、いいのかなという思いです。石内先生の意見に同感です。もっとバランスのいい食事を入れてあげないといけない時期ですよ。

(百武副委員長) 確かに今、体作りの基礎である時期の昼食に対するいろんな審議をしているということを私たちは忘れてはならないと思います。他の意見としては、保護者の意見として大谷委員は何かありませんか。

(大谷委員) そうですね。保護者の意見としてお母様とよくお話をする機会

があるので、お母様方はやはり給食をやってもらえると、お仕事をされていて忙しい中に弁当を作るとかそういったことをしなくて済むと言う方は多いですね。子どもたちは、その子によってまちまちと言いますか、どちらでもいいですという感じで、あるいは体を大きくしたいという子であれば、いろいろ自分が教えてもらった中で、卵がいい、納豆がいいとなればそれと一緒に食事を取ってみたい、バランスよく取ってみたい、一方で私はもっと少ない方がいいという子もいますので、どちらかというとその子に合わせた選択というのが、子どもにとってはいいのかなと思います。

（百武副委員長）確かに家庭の教育力は落ちたということはよく言われていますが、いつの場面で自分の食事について真剣に向き合うかという時期も必要だろうと思います。はたして、小学校で足りるのかそれとも、継続して中学校までしていった方がいいのかとか考え方の一面もあるかと思っています。ただ、お母様には給食は弁当の代わりじゃなく、食育の場であるということを経験があればはっきり申し上げてお伝えしてほしいと思います。

（岡委員）一つだけパン食について申し上げていいでしょうか。先ほどお話にもありましたけれども、朝食をパンにしますか、和食にしますかというのは嗜好の問題だと思います。パン2個だと補足がありました、朝昼晩でいずれもパン2個だと過ごしているわけではないので、子どもにとってパン食というのは一つの嗜好としてという回答でしょうから、そこは誤解が無いようにしないといけないと思います。ただ、関連してあるのは、どんなパンを販売して、どんなパンを選んで食べているのかというのは、やはり気を付けないといけないと思います。いわゆる菓子パンのようなものを中心にするのか、惣菜パンを選ぶのとでは違ってくると思います。以上です。

（百武副委員長）販売の在り方ですかね。売店があるところとないところがあるのですかね。

（事務局 森木）売店は4中学校全てにございます。パンの種類については、同じところもありますが、全部までは把握しておりません。申し訳ありません。いろんな種類のパンが入っているかと思っています。

（百武副委員長）今は中学校の家庭科でもコンビニのお弁当の活用の仕方とかそういうことも入っているんじゃないんですかね。

(岡委員) さきほど副委員長さんがおっしゃったとおりで、いわゆる食育というのは本当に重点を置いてやらなければいけない大きな柱になっていますというところでは、例えば、お弁当の日というのを作って子どもにお弁当を作らせたり、教師もお弁当を作ってきたという日にしたりです。ところによっては、年に2回ほどするところもあると思います。私よりも石内先生の方がお詳しいかもしれませんが、子どもが自分でメニューを考えて親と相談をしながらお弁当を自分で作って持ってくるという日があったりします。

(百武副委員長) ありがたい取り組みですね。

他にご意見無ければ最後のところに行きたいと思います。教育委員会の方、よろしくをお願いします。

(事務局 鳥飼) 最後の13番「寄せられた意見・要望」というところでございます。21、22ページですが、まず中学生の意見要望といたしまして、一番多かったのが201人中33名の「選択方式がよい。給食はいらない」という要望でございます。続きまして、「弁当はおいしい。弁当の方がいい」というご回答をいただいております。あとはそれぞれ「ランチサービスの利用がしにくい」とか「食事の時間が短い」とかというようなご意見をいただいております。

続いて、中学生の保護者のご意見・ご要望でございますが、442名の方にご回答いただいております。84名の方が「ランチサービスは利用しづらい」「利用者が少ない」などというようなお答えです。それから、82名の方については「給食を実施してもらいたい」、77名の方については「給食は栄養バランスがいい。家庭で足りていない栄養が補える。」というようなお答えをいただいております。この三点が一番多かった点でございます。

それから、中学校の先生方のご意見・ご要望でございます。回答数が48名でございます。7名の方が「給食は時間的ゆとりがなくなる」ということと、「給食費の未納の問題」も気にされているようでございます。続きまして、「選択方式がよい」というご意見をいただいております。あとは、ご意見にもありました通り「アレルギー対応が困難」だとか様々のご意見をいただいております。

続きまして、小学生の方のご意見・ご要望ということで、270名の方にご回答いただいております。一番多かったご意見の中で39名の方が「みんなで一緒に楽しく食べたい。好きな場所で食べたい。」というご意見です。それに続きまして、「選択方式がよい」というようなご意見をいただいております。いろんなものを選んで食べてみたいといったところです。平成26年度

からメニューの選択制、バイキング方式というものが始まって、それが楽しかったのかなというご意見だろうと思います。

それから、最後になりますけども、小学校の保護者の方のご意見ご要望ということで、453名の方にご回答いただきまして116名というかなり多くの方から「給食を実施してもらいたい」というご意見をいただいております。それから「給食は栄養バランスがいい。家庭で足りない栄養が補える」「ランチサービスが利用しづらそう」というご意見をいただいております。以上でございます。

(百武副委員長) 小学校の保護者の方が給食に賛成、中学校の保護者の方はランチサービスが利用しづらいという意見と給食を実施してもらいたい、弁当は大変だというような意見があるようですね。給食はおおむね好評で受け入れられているようですね。

(石内委員) そうですね。

(百武副委員長) やはり、中学生は弁当が美味しいということですかね。このところで何か質問はありませんか。「中学生になったら給食はいらない」というのもありますね。

(岡委員) よろしいですか。21、22ページは自由記述ですよ。ですから、見方としては13ページにちゃんとパーセンテージが出ていますので、13ページで「実施した方がよい」とか「実施しなくてよい」と、その答えた理由の中身が21、22ページに自由記述で部分的に示されていると解釈すればよろしいのではないのでしょうか。

(百武副委員長) そうなると、この答えの細かなところはこれですよというような感じのものがあればいいのでしょうか。

(岡委員) アンケートの構成そのものが大きいところから枝別れしてだんだん小さいところに行くようになっていきますし、最後はあくまでも自由記述なのでまとめて、場合によっては〇ページ参照という風でもいいのかなと思います。

一つ気を付けておかないといけないのは、自由回答になっていて例えば22ページの小学生の意見・要望のところで「みんなで楽しく食べたい。好きな場所で食べたい」の39%は多いですよという説明は先ほどありましたが、

これは給食であろうが弁当であろうが一緒なわけで、この意見は給食を支持しているとか弁当を支持しているとかそういう解釈はできないと思います。同様に、上に教師の意見もありますが、いわゆる「給食は実施しない方がよい」という意見と「給食に賛成」という意見と、それから条件によっては賛成であるとか反対であるとかありますので、あくまでも自由回答ですから参考意見というところになるのではないかと思います。解釈の仕方だけ気を付けておかないといけないと思います。

（百武副委員長） 椎葉先生は何かありますか。

（椎葉委員） 結果として、20ページの11番に出ていますよね。保護者は全員給食を8割の人たちが希望している、なぜそう思うかというのは栄養のバランスを重視しているということだと解釈しております。子どもたちはやはり、楽しく食べた方がいいので、給食を毎日食べさせられるよりも、今日はパンにしようとか今日はランチサービスにしようとかがいいと思うから多いのかなと思っています。それをどう取っていくかですけど、先生たちは大変になるし、時間の制約が出るので、それをどう解決していくかですよ。

極端な話としては、全員がランチサービスを取るようにするとか、そのランチサービスの栄養も中学生の栄養を満たすようなものにしていくとか、そういう方法を考えていった方がいいのかなと思います。

（百武副委員長） あとは、一般市民の方のアンケートの結果が残っているというわけですね。これは、3月28日までの回答でしたよね。

（事務局 鳥飼） はい。3月28日が最終の締め切りとなっております。

（百武副委員長） では、その回答も含めてまたいろんなご意見が出てくると思いますが、今後の見通しがあれば教育委員会の方からどうぞお願いいたします。

（事務局 鳥飼） 今、副委員長がおっしゃっていただきました一般市民の皆様に対するアンケートを実施しております。3月11日に発送しまして、まだ35%くらいの回収率ということで報告がっております。そして、督促状兼お礼状というものをお出ししまして、最終的に3月28日までの締め切りとさせていただいております。集約期間を設けまして、だいたい4月の末くらいを目途にまとめていただく予定となっております。



(百武副委員長) はい、わかりました。そういう段取りになるということです。よろしく願いいたします。

以上で内容の審議についてはよろしいですか。

(一同) はい。

(事務局 鳥飼) それでは、その他ということで、皆様からご意見ご要望等がありましたらいただければと思います。

(岡委員) それでは、一点だけよろしいですか。今日は使わないということですが、資料の最後のページに実施方式による比較ということでもありますよね。この辺はこの回で論議することは無いということなのですかね。

(事務局 鳥飼) そうですね。参考資料ということで、配布をさせていただいております。他市の状況もありまして、参考ということで見ていただければと思います。

(岡委員) わかりました。

(事務局 鳥飼) それでは、次回の会議の日程についてですけれども、あらかじめ決めさせていただけたらと思いますが、先ほど申し上げさせていただきました一般市民の方へのアンケートの集約がだいたい4月末をめぐりに出来上がるということになっておりますので、それをまとめましてそれをもとに、今回と同じようにご意見をいただけたらと思っておりますので、5月に入りまして連休が明けたそのあたりを考えておりますが、いかがでしょうか。

(百武副委員長) 具体的には、いつ頃ですか。

(事務局 鳥飼) そうですね。5月の9日の週かもしくはその次の16日の週でいかがでしょうか。

(百武副委員長) これは、都合が合わない日を言った方がいいですか。

(事務局 鳥飼) 皆様の差し支えが無く、予め分かっておられるのであればおっしゃっていただきたいと思います。

(事務局 森木) 日にちを申し上げた方が早いですかね。

5月12日、13日はいかがでしょうか。ご都合の合わない方はいらっしゃいますか。

(岡委員) 時間は19時ですかね。

(事務局 鳥飼) 差し支えが無ければ、今日と同じ開始時間でいかがでしょうか。

(百武副委員長) もう少し早くすることはできますか。

(事務局 鳥飼) 早い方がいいということであれば、全然構いません。

(百武副委員長) 大石委員長さんがお見えになるのが困難になったりとかは、大丈夫ですかね。

(事務局 森木) 18時はいかがでしょうか。

(古田委員) 可能であれば、早い方がいいです。あとは、大石さんですね。

(百武副委員長) では、12、13日でできれば18時からということでしょうか。

(事務局 森木) 事務局の方から大石委員長に可能かどうか連絡を取りまして、中島さんにもご連絡をするようにいたします。

(岡委員) 一点だけいいですか。12、13日の方向で進めていただいてもいいと思いますが、中学校は15日が体育祭になりますのでその状況によっては厳しいかもしれません。おそらく大丈夫だとは思いますが。

(事務局 鳥飼) それでは、12日か13日かということですが、事務局の方で決めさせていただいてご連絡差し上げるという形よろしいでしょうか。

(一同) はい、お任せします。

（事務局 鳥飼）決まり次第またご連絡差し上げますので、よろしくお願  
い  
します。

それでは、長時間のご審議ありがとうございました。これで第3回太宰府  
市学校給食改善研究委員会を終了させていただきます。どうもありがとうご  
ざいました。